

蘇州の古い職業(4)

●刺繍靴縫製 昔は靴の多くは布底で、布を一層また一層と畳んで重ね、糸と針で縫い合わせました。これを靴底縫いと言います。靴底が完成すると上部を作りますが、上には文様や花もよりの図案を刺繍し、これが繡鞋と呼ばれます。繡鞋はすべてお金持ちの女性、とくに深窓の令嬢がはきました。

做繡鞋 以前の鞋子多为布底鞋，靠一层一层的布重重叠叠，用针线扎紧，这叫扎鞋底。鞋底完成后，再做上鞋面，在鞋面上再绣上彩色图案、花朵，这就叫繡鞋。繡鞋都是有钱人家的妇女特别是闺房小姐穿的。



●マホガニー彫刻 蘇州のマホガニー彫刻は国内外で有名です。これはわが国に古くからある彫刻芸術で、蘇州人はこの芸術を極限にまで発展させました。素材を粗く削ってから完成に至るまでの工芸は複雑で、一つの作品は彫刻技術のほかに上塗りの技術も非常に重要です。純粹に鑑賞用で実用性のないものもありますが、蘇州のマホガニー彫刻は実用性と鑑賞を完全に兼ね備えています。

红木雕刻 苏州的红木雕刻闻名海内外。本雕是我国一种古老的雕刻艺术，苏州人将这种艺术发扬光大到了极至，从毛坯木料的雕凿到完成，工艺繁杂，一件作品除了木料的本身及雕刻技艺外，还有其油漆工艺也非常的讲究。有的是纯粹的摆设品，没有实用性。苏州的红木家具就是将实用性和欣赏性完美的结合。

●**凧づくり** 凧は人類が初めて天に上がるために作った人工の品で、わが国の古代の大発明の一つです。紙と糊でつくったのもあり、絹製のもありました。現在でも絹製のもあり、これはかなり高価です。蘇州人は優秀で手が器用なので、祖先代々凧づくりで生計を立てている者もいます。現在の凧はすでに国際舞台に登場しています。しかし、凧は糸が切れてはなりません。糸の切れた凧がどうなるかはご存じの如くです。

扎风筝 风筝是人类最早人工制品“上天”的东西，也是我国古代一大发明。有用纸糊的，也有用绢制的。现在还有的用丝绸制的，那就比较高档了。苏州人心灵手巧，有的是祖祖辈辈靠扎风筝养家糊口的，现在的风筝已经登上国际舞台，但是风筝是不能断线的，断了线的风筝你就可想而知了。



●**唱堂会** 金持ちが芸人を家に呼んで曲を聞かせてもらうことを「唱堂会」と言います。一般には金持ちの家の者が裕福さを示すために行います。依頼される芸人はその地の有名な人です。

唱堂会 唱堂会是有钱人请艺人到家里唱曲称“唱堂会”。一般都是家中富有，显尊贵富华之气派。请的艺人起码是当地名角。

●**茶摘み** 蘇州の茶で最も有名な碧螺春(ビールオチュン)①は、蘇州東山(ドンジャン)の中腹でしか育ちません。葉が柔らかく手で摘みとらなければならないので、ほとんどが田舎の女性の仕事となり、摘みとった後に鉄の鍋で炒るのに人の手を必要とします。上等の碧螺春は摘みとってから炒るまでの工程の非常に重要視し、そのお茶の入れ方、飲み方、というのも一つの学問になり、「茶道」と呼ばれています。

采茶叶 苏州的茶叶尤为“碧螺春”最负盛名，此叶只生长在苏州东山半山腰里。是一种树叶的嫩头，故而需要采摘，大多为乡下女子做的事，采摘后，还需用手在铁锅内炒熟，上等的碧螺春从采摘到炒熟的过程都是非常讲究的，那泡茶、喝茶又是一门学问了，叫“茶道”。



●**急須づくり** 蘇州でつくられる急須と宜興(無錫の都市)の急須はまったく異なっています。一つには原料が異なっています。宜興のものは紫砂①で作られたもので、蘇州のは石(澄泥石②)で作られたもの。二つ目は、宜興の急須は実用性があり、蘇州の澄泥石の急須は鑑賞性を備えていて製造方法も異なっています。宜興のものは紫砂を焼成して作られ、蘇州のほうは澄泥石を彫って作られます。

①紫砂とは主に江蘇省宜興市の丁蜀鎮一帯で産出される陶器用の土。

②澄泥石は蘇州靈巖山から採れる自然石。

制茶壺 苏州做的茶壺与宜兴茶壺绝对的不一样了，一从原料上不一样，宜兴为紫砂壺；而苏州的为石头壺(澄泥石)；二宜兴茶壺具有实用性，苏州茶壺更具欣赏性，做法也不一样，紫砂是一种泥需烧制，石壺只能雕凿。



●お産婆さん この仕事は現在ではすでに“死滅”寸前です。現在の産婦人科の医者のようなものです。昔は田舎の人たちは病院にはいかず、家でお産をするのが普通で、陣痛がきて妊婦のお腹が痛

くなったときにお産婆さんが呼ばれました。お産婆さんは必要な道具を持って急いでやってきました。しかし難産にぶつかりお産婆さんは局面を挽回するすべをなくすこともありました。

接生婆 此行当现已彻底“灭迹”了，生命攸关。相当于现在的妇产科医生。当时特别是乡下人，基本上不上医院，在家待产，临盆时（孕妇肚子痛了）才叫上接生婆，接生婆带上需用工具匆匆前往，碰到难产孕妇，她便无回天之术了。



風情ある用直



●藍染め 藍染めは藍色の布に白いもようを、あるいは白い生地の上に藍色のもようを染める布で、蘇州の用直(ルーヂー)①一帯では非常に流行しています。布を踏み、さらし、染め、もようを付けるのです。もようにロウを塗ってから藍染をすると、藍色の地の上に白いもようができ、もよう以外の部分にロウを塗って染めると、白地に藍色のもようができます。

①用直……蘇州市吳中区に属する鎮(鎮とは県の下に位する行政単位の一つ)で古い風情を残している地域。

做兰印花布 兰印花布是藍底白花、或白底藍花的一种土布，苏州乡下用直一带非常流行。通过踏布、漂布、染坊，再后印花，印花前将花纹图样上蜡，即为白花藍底，如将底纹上蜡，就成白底藍花了。

●漆職人 漆工芸は「漆の水」が重要で、蘇州の漆職人は非常に有名です。漆職人は家具の漆職人と蒔絵の漆職人（これはかなり画家に近いです）に分類されます。中には扉や窓をごしごとと擦るような下手な漆職人もいます。

油漆匠 油漆工艺讲究“漆水”，苏州漆匠也极负盛名，漆匠中也有分类，有专做家具的漆匠，有描金绘彩的漆匠（这个比较接近画工了），还有的整脚漆匠刷刷墙、刷刷门窗之类的。



●砂糖粥(さとうがゆ)売り 「篤篤篤，売糖粥，三升禾稻四升殼……①」

これは当時の子供たちの「流行り歌」です。その砂糖粥は「これ以上はない」というほどおいしかったにちがいありません。そうでなければこの歌が代々、蘇州の多くの子供たちに伝わったはずがありません。今の砂糖粥はもう子供たちが食べるものではありません。それを食べた人に昔を懐かしがらせる食べ物なのです。しかし、口に入れたときには、あのころの味とは違ったように感じるのです！

①「三升禾稻四升殼（三升の稲で四升のもみ殻）」の歌詞は、もともとは「三斤胡桃四斤壳（三斤の胡桃で四斤の殻）」で、伝えられている間に違う文句が入れられたのだろう。両者ともに「とても上等だ」という意味を表している。

卖糖粥 “笃笃笃，卖糖粥，三升禾稻四升壳……”。这是那个年代苏州小孩的“流行歌曲”。我想这糖粥肯定好吃非凡，不然这歌谣一代传一代，不知传了多少代苏州小孩。如今的糖粥已经没有小朋友去吃它了，即使有人吃也是老年人去怀旧罢了，但吃到嘴里总觉得不是那个味！

●**金磚** 金磚は蘇州の陵墓の「御窯」でだけしか生産されませんでした。皇宮専用の窯で、金磚はその土地の土を使って焼成されるものですが、工程が長く、形成したあと日光にさらさず雨に濡らさず、涼しい場所で乾燥させます。普通は1年間かけて乾燥させたあと窯入れをして焼き上げます。できあがった瓦を打つと金属のような音がするので金磚と呼ぶのです。

烧金砖 “金砖”只有苏州陆墓御窑那里生产了，专为皇宫烧制，所谓金砖，也就是将当地泥土烧制而成的，但工艺流程长，毛坯制成后，不能太阳晒，也不能雨淋，在阴凉处凉干。一般需一年时间凉干后入窑烧制，制成的砖，击之声音如同金属声，故而称其为金砖。



●**骨董屋** いわゆる骨董というものはその多くが偽物で、磁器や陶器、鼎、各種の容器など実にさまざまなものがあります。骨董売りは街の壁の下や門の内外に現れます。骨董を買うにはあなたに物を見る目がなくてはなりません。高いものがいいもの、本物とは限らず、安いものが粗悪品とも限りません。国宝級のものがあなたの目の前を素通りして、それを知ったあと一生後悔するかもしれません。

卖古玩 所谓的古玩，多是些假货居多，瓷、陶、鼎、各式器皿应有尽有，古玩贩子大都出现在城墙脚下，城门内外，买古玩你得识货，高价不一定买得到好货、真货，便宜不一定是蹩脚货，说不定就是一件国宝在你眼前晃过，那你就后悔终生了。